

今日は大寒です。寒さもピークを迎えようとしています。メールマガジンは熱い思いでお届けします。新しい年を迎え我々も気分一新、さらにがんばります。引き続きご愛読のほどよろしくお祈いします。  
現在会員登録数 3,660 人さま。次号は 2 月 22 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● IICLO オンライン講座 I 「授業に役立つ！子どもの文学5つのレッスン」  
第1回「宮沢賢治を読み直す①「注文の多い料理店」」 ※申し込み受付中！

講師：宮川健郎（当財団理事長）

発展読書案内：土居安子（当財団理事・総括専門員）

視聴料：1300円 対象：子どもの本に関心のある方ならどなたでも

◇第2回以降は随時配信します。全5回の内容、詳細は ↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html#iicloonline1](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#iicloonline1)

◇お申し込みは「Peatix」から↓↓

<https://iicloonline1-1.peatix.com>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

\*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/donation\\_10th.html](http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html)

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → [http://www.iiclo.or.jp/m1\\_youtube/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html)

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【 2 】 コ ラ ム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*  
《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*  
『マイブラザー』草野たき/著 teens' best selections ポプラ社 2021  
年11月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：公立中学に通う中学2年生の海斗（かいと）は、2年前、父親が企業の研究所の仕事をやめて突然、パン職人の修業を始めたことに怒りととまどいを覚え続けていた。中学受験をやめ、公立中学での退屈な毎日から目をそむけるために、5歳の弟の保育園の送迎をし、弟の面倒を見ることに打ち込んでいく。保育園の同窓生男女5人が集まる機会があり、海斗はそれぞれが悩みを抱えていることを知り、また、父に怒りをぶつけることで、自分のために自分の人生を生きることを考え始める。

Y：社会でヤングケアラーが注目されていますが、この本は、自ら弟のケアを志願した中学生の物語です。

T：主人公海斗は、自分の直面する問題を回避するために5歳の総也の面倒を見ていて、時には学校へも、さそわれて行った私立中学の文化祭へも同窓会にも連れて行きます。そこで面倒を見られているはずの総也が、海斗や他の中学生たちにいろいろな気づきを促します。ケアをされているものがケアをしているものを育てるという構図がとてもおもしろいと思いました。

Y：家族がお互いの面倒を見合うということと、ヤングケアラーとして社会問題にすべきこととの境界はとても曖昧です。この作品が出されたことによって「家族」の意味が問い直されたように思いました。

T：主人公や周りの中学生たちはみな、経済的には恵まれています。特に名門中学へ行った倫太郎や彩音は、自分があきらめた道を進んでいる、海斗にとってはうらやましい存在です。ところが、実はそれぞれに悩みを抱えています。

Y：それに海斗が気づいたとき、他人からうらやましい人生を送っているように見えても、誰もが悩みを抱えながら生きているということ、どんな状況にあっても自分のために生きることが大切だということを悟ります。

ただ、一人ぐらい、経済的に違う家庭環境の子どももいてもよかったですかなと思いました。

T：海斗は、倫太郎も健吾もそれぞれ悩みを抱えていることを知った後、二人についてきてもらってパン職人の修業をしている父に会いに行きます。そして、疑問に思っていたことを直接たずねます。自分の問題に向き合うこと、父親と直接対話をするのが書かれていて納得しながら読みました。

Y：これからますます多様で柔軟な生き方が求められる社会にあって、どんな生き方が幸せなのか、読者も海斗とともに考えられる結末になっていると思いました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第77回「耕耘部の時計」

新旧労働者の葛藤

ある朝、農場の耕耘部（こううんぶ）に、若い赤シャツの男が働きにやってきます。農夫室には、盤面（ダイヤル）は青じろく、ツルツル光り、舶来の上等らしい円い柱時計がかかっている、男は自身の腕時計と見比べ（あいつは十五分進んでいるな）と思います。腕時計の竜頭を引っ張って針を直そうとし、農夫たちにどっと笑われます。

玉蜀黍（とうもろこし）の脱穀の仕事を終えると、お昼を知らせる鐘がなります。そのときあらためて腕時計をみた男は、不思議そうに（今度は合っているな。）とつぶやきます。

食事を終え、男が休息しつつ農夫と話していると、時計ががちっと鳴ります。正午には合っていた時計が今度は十五分遅れており、ぼんやりダイヤルを見ているとまたみんなにどっと笑われます。

仕事終わりの午後六時。日暮れからすっかり雪になり、明るく電灯のついた農夫室では、赤シャツの男が小さな手帳に何か書き込んでいます。すると、例の蒼白く美しい柱時計がガンガンガン六時を打ちます。男がだまって針を睨み付けていると、いままで五時五十分を指していた長い針が一気に六時十五分の所まで飛びます。壊れていた時計を修理した男は、もう一度自分の腕時計に柱時計の針を合せて、安心したように蓋をしめます。

耕耘部の〈耕耘〉とは、一般的に田畑を耕し、雑草を取り、作物を作ること。つまり耕耘部とは、農場の一部署ということになります。

時間によって管理され、時間を基に働くこの近代的農場で、その基盤となり象徴ともいえるのが立派な西洋製時計であり、そしてその壊れた時計にたびたび翻弄される若い男は、赤い毛布でできたシャツを着込み、腕時計をはめ、黄色なゴム靴を身にまとう近代的労働者の出で立ちです。（伊藤真一郎「耕耘部の時計」2003年）

対して、農夫室にいるのは犬の毛皮を身につけた旧来の労働者たち。彼らは本来、日の出とともに野に出て働き、日の入りとともに仕事を終える、まさに自然的時間の持ち主です。時計のからくりを知るこうした旧来の労働者が、時計の狂いを気にかける近代的労働者たる若者を冷笑する件からは、両者に一定の相容れない労働規範、帰属意識が読み取れますが、一方こうした断絶がお互いを疎外するまでには至っていないようにも見えます。近代的農場を舞台に、新旧労働者の微妙な位置関係を描いた作品と言えます。（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション5 なめとこ山の熊』によりました。）

\*\*\*\*\*

《3》子どもの本の珠玉のことば 31

\*\*\*\*\*

「オレのはぜんぶしまっとくの。そんで帰ったらオレの家に置く」  
つづけて言って、ほかのプレゼントも、ふくろにもどしはじめた。

(『かさねちゃんにきいてみな』 有沢佳映/著 講談社 2013年5月 p.280)

この本が出版されたとき、朝の集団登校の時間をこんなにもいきいきと描いた作品を初めて読んだと強く印象に残ったことを覚えています。小学5年生で集団登校の副班長であるユッキー少年の視点で、班長である6年生のかさねちゃんの班員へのすばらしい対応を描いています。ユッキーは、来年自分が班長になって班員をまとめられるか不安に思っていますが、副班長としての1年間の経験を経て、班長になることを受け入れます。

班はかさねちゃんとユッキーを入れて8人。その中には、おしゃれ好きで新しいお母さんと暮らしているマユカ(4年生)、いつもジャージ姿でテンションが高く、忍者修行に夢中な太郎次郎兄弟(2, 3年生)、学校では話をしなくて色白でぽっちゃり体型で走るのが遅いのんたん(2年生)、かんしゃく持ちのために前の班を追い出され、少し遠いところからこの班に参加しているミツ(1年生)、そして、冬にもかかわらず薄い服を着ていて、お腹がすくとハトにえさをやっているおばあさんからパンの耳をもらって食べ、落ち着きがなく、クラスではいじめられているリュウセイ(4年生)がいます。

かさねちゃんは、このメンバーを落ち着かせるときは、嫌われ者のヨウイチと、呪いの魚だと言われている犬面魚と、体が一つの双子が、洪水の町を救う『双子のぼうけん』という自作の物語を語ります。引用の場面は、リュウセイがネグレクトで発見され、3駅離れたおばあちゃんの家で預けられているときに、かさねちゃんとユッキーがみんなから預かったクリスマスプレゼントを持っていった場面です。

プレゼントの中には、太郎が作った『双子のぼうけん』の双子を粘土で作った人形や口さけ女に出会ったときに渡す飴やリュウセイが前に好きといていたハムなどがありました。リュウセイは、人形を飾ったらといったユッキーに対してしまっておいて「オレの家に置く」と言います。あまり話さず、話しても一単語だけの返答が多いリュウセイが文にして語ったことで、リュウセイの母への思いがユッキーたちにも読者にも伝わる部分になっています。(Y)

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

三重県立美術館で来年1月30日(日)まで開催されている展示「杉浦非水 時代をひらくデザイン」に行ってきました。杉浦非水(1876-1965)は、日本のグラフィックデザイナーの草分けといべき人で、展示は非水の作品が4章に分かれてほぼ時系列に展示されていました。

第1章「図案との出会い」では、愛媛県松山市に生まれた非水が日本画を学ん

だ時の絵や、上京して中澤弘光と黒田清輝の家に寄寓し、アール・ヌーヴォーなどの装飾資料と出会い、ミュシャなどを模写した時代の作品が紹介されていました。特におもしろかったのは、中澤と私的に作った与謝野晶子の『みだれ髪』を元にした「みだれ髪歌がるた」。後の図案の萌芽が見られます。

第2章「図案の開拓者」は、三越呉服店の嘱託として勤めながら、三越のみでなく、さまざまな雑誌や図書や広告の仕事をした明治後期から大正期の作品が展示されていました。『少年世界』（博文館）や三越開催の「児童博覧会」を記念した育児日誌である『子宝』（巖谷季雄編 三越呉服店、1912年2版）など、国際児童文学館にも所蔵のある資料も多くありました。

第3章「自然に学ぶ—写生と図案」は、非水の写生の図案への影響がわかる展示となっており、多色摺木版『非水百花譜』はその繊細な草木が美しく、非水の写生の精確さ、構図のおもしろさはいうまでもなく、彫師と摺師の職人技に見入ってしまいました。

第4章「非水が目指したもの、のこしたもの」は、大正11年、46歳のときにヨーロッパへ遊学した後の作品が展示されており、たばこのパッケージデザインが特に心に残りました。

杉浦非水のデザインからは、見ることの楽しさが伝わってきて、見慣れた人や建物や花や動物を違った視点で見ることができました。図案を芸術の一つのジャンルと考えた非水の信念に共感し、目のごちそうをたっぷり味わった時間でした。（Y）

「杉浦非水 時代をひらくデザイン」 <https://sugiurahisui.jp/>

■ ----- ■

### 【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

#### ● JBBY 希望プロジェクト学びの会

「子ども・若者の「生きづらさ」—大人には見えない思春期のあれこれ—」

講師：金子由美子（（一社）“人間と性”教育研究協議会代表幹事 ほか）

日時：1月30日（日）14：00～16：00

場所：オンライン（Zoom） 参加費：有料

主催：（一社）日本国際児童図書評議会（JBBY）

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

### 【4】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『マイブラザー』をプ

プレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.137 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。  
締切は2月11日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |  
— | — | — | — | — | — | — | — | — |

正月明けで運動不足気味の今日この頃、寒さに負けず、久しぶりに近くの公園を歩いてみました。日の光を浴びながら、木々の間を歩いていると、気分爽快。手近なストレス発散には最適です。三日坊主にならないよう、定期的なウォーキングを心がけたいと思っています。(T A)

-----  
みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

-----  
発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp  
-----